小項目ごとの評価に関する評価委員会の検討結果

資料2

「市民に提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する小項目評価

評価番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
【1】	総合医療センター	Ⅳ	＞	Ⅲ	●機構の自己評価では、参考数値の手術件数の大幅な増加などによりⅣ評価とされているが、機構が設定した目標指標については、OGCS取扱件数は年度目標を上回っているものの、その他は年度目標に達していない。その結果、個々の目標指標はⅣ評価が無くⅢ評価あるいはⅡ評価となっていることから、評価委員会としては、Ⅲ評価が妥当と判断。
【2】	十三市民病院	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標のすべての指標で平成30年度の目標値を上回ったうえ、内科系二次救急については、月曜日と金曜日も受け入れを行った結果、救急搬送件数が目標の1.4倍と大幅に上回っていることから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【3】	住吉市民病院	Ⅲ	＝	Ⅲ	●平成29年度末の閉院予定による厳しい病院運営のなかでも、救急車搬送件数やOGCS受入件数は概ね前年度実績であるなど、市南部基本保健医療圏に不足する小児・周産期医療提供の役割を最後まで果たしたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【4】	新しい治療法の開発・研究等	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標数値である臨床研究（新規）件数が目標、前年度実績を上回り、また、自治体病院としては全国初となる厚生労働省の臨床研究倫理委員会の認定を受けたことなどを考慮し、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【5】	治験の推進	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である医師主導治験が目標・前年度実績ともに上回り、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅳ評価とする法人の評価を妥当と判断。
【6】	災害や健康危機における医療協力等	Ⅲ	＝	Ⅲ	●災害拠点病院である総合医療センターを中心に、十三市民病院においても各種防災訓練等に積極的に参加した。また、DMAT隊の災害対応能力の向上に向けた取り組みや、災害時の生活用水の確保など、災害拠点病院としての責務を果たすための体制強化を進めたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【7】	優秀な医療人材の確保・育成	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標のうち初期臨床研修医育成数を除くすべての指標で目標を上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【8】	職場環境の整備	Ⅳ	＝	Ⅳ	●育児短時間勤務制度の運用を実施しているほか、勤務実態に応じた柔軟な勤務体制の導入や、病児保育の実施など、働きやすい職場環境の整備に努めたことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

評価番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
【9】	施設及び医療機器の計画的な整備	Ⅲ	＝	Ⅲ	●老朽化した設備の更新や重症病床の拡充等一連の改修工事について計画的に実施したほか、医療機器調達コストの抑制を図るなど、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【10】	地域医療への貢献	Ⅲ	＝	Ⅲ	●地域医療機関との連携については、概ね前年度並みであり、年度計画の項目を着実に実施した。目標指標である紹介率・逆紹介率は、総合医療センターは目標を上回り、十三市民病院は目標には達しなかったものの、前年度を上回ったことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【11】	市域の医療従事者育成への貢献	Ⅳ	＝	Ⅳ	●目標指標である実習受入れ数が受入れ数、受入れ延数ともに目標・前年度より大幅に増加したことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【12】	市民への保健医療情報の提供・発信	Ⅲ	＝	Ⅲ	●市民公開講座等の開催については積極的に実施し、情報の提供・発信に努め、年度計画の項目を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【13】	患者中心の医療の実践	Ⅳ	＝	Ⅳ	●がん患者のサポート体制を充実させ、就労支援にも積極的に取り組むなど、年度計画の項目を着実に実施した。目標指標であるがん相談件数についても、目標・前年度を大きく上回ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【14】	医療の標準化と最適な医療の提供	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標であるクリニカルパス適用率について、総合医療センター、十三市民病院ともに目標には達しなかったものの、総合医療センターは前年度を上回り、十三市民病院は概ね前年度並みとなった。また、DPC等にかかる総合医療センター及び十三市民病院の取組みについて、概ね年度計画の項目について着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【15】	医療安全対策等の徹底	Ⅲ	＝	Ⅲ	●各病院の医療安全対策、院内感染対策、服薬指導等について、年度計画の項目について着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【16】	低侵襲医療の推進	Ⅲ	＝	Ⅲ	●内視鏡手術支援ロボット　ダヴィンチの稼働など、年度計画の項目について着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【17】	院内環境等の快適性向上	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、各種サイン及び案内板等の整備、外来化学療法室の移設・拡充など、患者に対する快適な院内環境の整備に努めたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【18】	待ち時間及び検査・手術待ちの改善	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、CT及び各種エコーの当日検査枠の増枠や手術枠の増枠、外来化学療法室での分散会計の導入を行うなど、待ち時間短縮に努めた。十三市民病院においても、診察の待ち時間短縮に向けた取り組みを行い、患者等の満足度向上に寄与したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

評価番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
【19】	ボランティアとの協働	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センターにおいて、外来患者・入院患者の案内、外国人患者の通訳等、各種サービスについて、前年度と同様にボランティアの受入れに努め、イベント等を積極的に行ってきたことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

「業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善」に関する小項目評価

評価番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
【20】	組織マネジメントの強化	Ⅳ	＝	Ⅳ	●総合医療センターにおいて、病院幹部から実務責任者までが参画するPTを平成26年度から継続的に開催し、様々な課題等について検討・改善を図ってきた。今年度はDPC特定病院群病院堅持の対策に病院を挙げて取り組み、これを維持した。また、病院固有の職員の採用に努めるとともに、新たな人事給与制度の導入を含め、更なる組織力の強化を図ったことから、Ⅳ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【21】	診療体制の強化及び人員配置の弾力化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●ER・外傷センターの立ち上げやPFMの対象診療科の拡大等、診療体制の強化等について、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【22】	コンプライアンスの徹底	Ⅲ	＝	Ⅲ	●独法化に伴い整備した各種規程について、医療を取り巻く環境の変化に対応し改正を行ったほか、コンプライアンスに関する研修やカルテ開示対応等について、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【23】	効率的･効果的な業務運営･業務プロセスの改善	Ⅲ	＝	Ⅲ	●各病院において、診療実績及び財務データの月次報告を作成し、分析、課題の把握、対応策の検討を行うとともに、法人の運営会議等で共有し、課題の共有や対応策の検討を行うなど、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【24】	病床の効率的運用・診療単価の向上	Ⅲ	＝	Ⅲ	●総合医療センター、十三市民病院ともに、病床利用率が目標に届かなかったが、新入院患者数は、前年度を上回った。総合医療センターにおいて、外来診療単価は前年度を下回ったが、入院診療単価は手術室増室やPFMの体制強化により前年度を上回った。十三市民病院においても、外来診療単価は前年度を下回ったが、入院診療単価は前年度を上回ったことからⅢ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【25】	未収金対策及び資産の活用	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である未収金徴収率は、わずかに目標には届かなかったものの、前年度と同率であった。資産の賃貸借については、引き続き公募等により契約の相手先を選定しており、年度計画を着実に実施したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【26】	給与費の適正化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である給与費比率について、十三市民病院では目標に達しなかったが、総合医療センターおよび全体では目標を達成したことから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。 ●一部の職種において直接雇用による人材の確保が出来ず、労働者派遣による確保となったことを説明されたが、このような人件費相当の経費については、給与費として計算するなど来年度以降見直しされてはどうか。
【27】	材料費の縮減	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である後発医薬品採用率について、総合医療センター、十三市民病院ともに目標および前年度を上回った。また、材料費比率について、総合医療センター、十三市民病院ともに目標には達しなかったが、前年度よりも向上したため、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。

評価番号	評価項目	自己評価		委員会評価	判断理由・コメント
【28】	経費の節減	Ⅱ	＝	Ⅱ	●目標指標である経費比率について、各病院、全体とも目標に達しなかったため、Ⅱ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。 ●一部の職種において直接雇用による人材の確保が出来ず、労働者派遣を利用したことによる委託料の増加が影響していることを説明されたが、このような人件費相当の経費については、給与費として計算するなど来年度以降見直しされてはどうか。
【29】	運営費負担金の削減・会計処理の明確化	Ⅲ	＝	Ⅲ	●運営費負担金については、目標額どおりであることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。
【30】	経営指標の設定	Ⅲ	＝	Ⅲ	●目標指標である自己資本比率は、前年度を上回り、医業収支比率は、概ね前年度並みであることから、Ⅲ評価とする法人の自己評価を妥当と判断。